

令和7年度6月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

【 会議名称 】 令和7年度6月期古賀市社会教育委員の会議

【 日 時 】 令和7年6月27日（金） 18時30分～20時00分

【 場 所 】 リーパスプラザこが交流館 301洋室

【 内 容 】 ・社会教育団体への補助金について
・令和7年度の取組検討

【 出席委員 】 園議長、橋爪委員、安部委員、石川委員、梅谷委員、江口委員、
大賀委員、倉掛委員、坂崎委員、藤田委員（以上委員10名）

【 欠席委員 】 なし

【 事務局 】 生涯学習課長、青少年育成課長、職員2名

【 傍聴者数 】 0名

【配布資料】

資料 1－① 社会教育関係団体に対する補助金一覧

1－② 古賀市 PTCA 連合会事業補助金交付要綱

1－③ 古賀市少年の船事業補助金交付要綱

1－④ 古賀市青少年育成事業補助金交付要綱

1－⑤ 古賀市スポーツ奨励補助金交付規則

資料② 令和 6 年度子どもたちの公民館利用に関する調査結果

1. 開会

2. 協議事項

(1) 社会教育団体への補助金について

(生涯学習推進課・青少年育成課より補助金の説明)

(倉掛委員)

PTCA 連合会補助金は連合会に補助金を渡し、各学校に分配するのか。

草刈り機が老朽化している学校もあるが、購入はできないのか。

青少年育成事業の子どもの居場所づくりに関する取り組みや、実際の活動内容についてももう少し詳しくお話を聞かせて頂きたい。

(事務局)

PTCA 連合会事業補助金についてお答えします。

1 点目は、以前は連合会全体で実施されていた講演会の会場使用料等に支出してきたが、コロナ禍以降、全体で集まっての講演会の開催が難しく、実施されていない。しかしながら、学校、地域、保護者が連携して、子どもたちの育成に努めていくためには必要な補助金だと考えている。市としては連合会にお渡しするが、各学校の事業計画を審査し決定している。令和 6 年度は、11 校中、6 校が事業を実施された。、今後は他の学校にも広がっていけばよいと思う。2 点目の草刈り機自体の購入だが、備品購入は補助対象外であるため、学校予算や PTCA の予算の中で対応いただきたい。草刈りの替え刃等の消耗品は対象としている。

(青少年育成課長)

子どもの居場所として、学童、児童センター、放課後子ども教室で地域の人たちが子どもたちの見守りをしている。「青少年の主張」作文事業は例年、多数の応募をいただいている。子どもたちが自分の思いを発表することで成長する貴重な体験になると思う。主な支出については、印刷製本費になる。

(倉掛委員)

PTCA 補助金は、現状に沿って柔軟に対応いただいて、ありがたく思っている。
今は全員加入ではないため、会費を集めづらくなってきており、補助金は必要だと思う。
青少年育成課もこれから特に居場所が大事になってくるので、子どもたちをどう地域で育てていくかが大切だと思う。

(梅谷委員)

少年の船はとても頑張っている印象がある。応募してくる子どもたちの数は増えているのか。親から離れる体験はとても大切だと思う。

(青少年育成課長)

去年は、実際の参加は40人で、定員以上の応募があり、抽選で決定した。

(園議長)

スポーツの補助金については、予算が110万円だが、何か実績があって決めたのか。

(事務局)

去年は対象者が少なかったが、多い年もあるため、できる限り予算を組んで対応していきたい。

(坂崎委員)

今 PTCA 加入率がとても下がっていて、各学校によっても収入や、事業数が違う格差があることも考慮頂きたい。少年の船の会費はどれくらいかかっているか。また、就学援助を受けている子どもたちも参加できるよう検討していただきたい。

(事務局)

PTCA の補助金は、上限額が30万だが、学校によって、決定額に差がある。一律ではないが、それぞれの学校で計画した活動に対して補助している。市の補助金審査会でのご意見も踏まえ、自分たちで目標人数や満足度などを指標として実績報告をもらっている。委員の意見を反映出来たらいいが、もうしばらく今の形で対応できたらと思う。

(青少年育成課長)

参加費は小学生、中学生が65,000円で対象経費が主にスタッフのみの旅費になる。子どもたちにもっと機会を与えたい気持ちもあるが、一定額のご負担いただいていることも公平性では重要ではないかと考えている。貴重なご意見をいただいたので、今後検討していきたい。

(倉掛委員)

社会教育関係団体とはどんな団体で何団体あるのか。

(事務局)

文化協会、スポーツ協会等もあるので、団体数までは把握できていないが、現在市としての補助金がこの4つになる。

(倉掛委員)

数年前、補助金検討委員会があったが、登録していて、補助金がほしいときにはどこかが審査するしくみになっているのか。

(事務局)

まちづくり推進課に公募型補助金がある。周期が3年なので、必要があれば更新している。毎回、だいたい5団体がプレゼンテーションしている。

(梅谷委員)

ご意見としてですが、スポーツは補助金があるが、文化系の団体の補助がない。部活はスポーツだけではないので、是非とも検討いただいて、新たに文科系の活動にも補助金をいただきたい。

(2) 今年度の取組検討について

(園議長よりスクリーンを使って説明)

今回は、研修として、福岡教育事務所より説明をいただいたが、社会教育には、様々な課題があるので、未来会議という形で意見を出し合いながら笑顔のつどいに向けて協議していき、最終的に9月頃には方向性やテーマを決めていきたいと思う。

今日は、前回皆さんに出していただいた意見の中から、関心があるテーマを3つ選んでいただき、1つを3分程度で発表していただきたい。

私の関心があるテーマは、1つ目が親子読書活動、古賀市は学校でも読書活動が盛んに行われている。2つ目がPTCA活動、古賀西小学校で味噌づくりをし、保護者も多く参加された。子どもを真ん中にし、地域の大人が参加することは重要だと思う。3つ目が多文化交流、古賀市では日本語教室に力を入れており、温かいつながりがある中で、素晴らしい活動をされている。では、1人3分ずつ関心ごとについて発表いただきたいと思う。考える時間を3分取ります。

(大賀委員)

「歩いて行けるとところに楽しい学び」を選んだ。住んでいる地域の公民館に木曜会という居場所があったが担い手不足で終了した。地域の高齢者の方、乳幼児の保護者の方が喫茶店のような形でお茶を飲んだり、お菓子を食べたりして交流していた。やはり、高齢者や乳幼児を連れた保護者が歩いて行ける公民館で活動ができるといいと思った。

(倉掛委員)

地域学校協働活動というところで、公民館の子どもたちの居場所づくりをしているが、学校で子どもたちが地域の方と活動をすることが特に必要と感じている。教職員だけでなく、地域の方の力を活用することも必要だと思う。古賀の公民館はいつも鍵がかかっているので、補助金などを活用し、子どもたちがもっと使いやすくなればと日頃から感じている。

(坂崎委員)

未来会議と子ども食堂と地域協働学校活動の3つを選んだ。未来会議はいろんな事柄の集約なので、肝になると思う。いろんな人と情報共有をする会議が必要だと思う。今、子どもから高齢者まで利用できるみんなの食堂を準備しており、非常にやりたいと思う。地域学校協働活動は、予算措置などで今後さらに広がっていくと思う。

(藤田委員)

地域の新しい住民と古い住民の関係に興味がある。
社会福祉協議会では、毎年会費を区長に依頼して集めているが、地域離れが進んでいるため、区に入るメリットがあれば、聞いてみたい。もう一つは「歩いて行けるとところに楽しい学び」を選んだ。

(橋爪委員)

1つ目が地域のつながり、今は地域のつながりが薄くなってきていると感じる。2つ目が子ども真ん中、3つ目が未来会議。
少年野球の指導をしているが、プレイヤーである子どもを真ん中にし、自然と保護者も関わって一緒に成長していく。最近、保護者の負担をなしにするクラブチームが多いが、減らしながらあえて関わっていただき、チームの中でも地域のつながりを作っていくことも大切だと思う。

(安部委員)

古賀市はどうなっていくかがよく見えない。その中で1番気になるのが、今子どもたちは非常に疲弊しているのではないかと思う。表現力がなかったり、大人が伝えようとするものが

伝わらなかったりする。子どもも大人も機械に頼りすぎて温かみのある伝達方法や意思の疎通がかけてきていると感じるため、古賀を読書のまちにしていくのはどうかと思う。

(石川委員)

文化協会でも子どもたちが参加できる楽しい活動を行っている。スポーツでも文化面でも活躍している子がたくさんいる。子どもたちが輝ける場所を与えていきたいと思う。

健康面では、高齢の方に体操を教えているが、みなさん元気に年を重ねていきたいという思いで参加されている。やはり近くの公民館で健康増進のために楽しく活動できるのが1番だと思う。

(梅谷委員)

皆さんの発表を聞いて、基本的には、すべてに共通しているのが多様な学び。子どもや高齢者にとっては自分たちで歩いていけるような場所でないと参加できない。

目指すものを明確にする未来会議が重要ではないか。手法はいろいろあるが、より身近にある公民館の活用がこれからのキーワードで、そこで食堂や体操や集いの場といった豊かな活動ができるのではないかと思う。

(江口委員)

若い世代の公民館の利用が気になる。古賀市はリーパスという大きな公民館があり、近隣の市町よりも充実していて、自習室にもたくさんの子どもたちが勉強しに来ている。分館も地域によってはしっかり活動されている。通学合宿は、子どもたちが学校では見せないいい顔をしていて、もっと多くの子どもたちが参加できたらいいと思う。公民館を中心に地域の子どもたちは育っていくと思う。

(園議長)

皆さんの意見を聞いて、質問やさらに詳しく聞きたいことがあればお願いします。

(倉掛委員)

安部委員へ質問です。読書のまちにはどんなふうにしたらできるのか、考えがあれば教えていただきたい。

(安部委員)

現時点で明確な考えはないが、地域の図書館に行くと、子どもたちが本を読むことを促進する取り組みをされている。学校の図書館は子どもたちが逃げ込める場所でもある。公民館に読書スペースをもう少し充実されるといいと思う。

(梅谷委員)

古賀市は昔から文庫活動があり、地域の公民館で本の貸し出しをしていた。ここ最近は、子どもが忙しくて集まらなくなったことが課題である。頑張っているボランティアの団体があり、市としては努力しているが、子どもたちの図書離れが進んでいる。

(倉掛委員)

学校では休み時間も短くなり、子どもたちが図書館に来る時間が無くなってきている。地域の方の読み聞かせや朝読などの時間も削られてきている。先生方の働き方改革は、大事なところを削らずにやってほしいと思う。

(梅谷委員)

図書は子どもだけでなく、オールマイティである。本もそうだが、いろんな人たちが楽しめる場所を試行錯誤していくことも大切だと思う。

(園議長)

古賀市は図書活動をしっかりされてきているが、今子どもの読書離れが気になっている。

(石川委員)

文字離れも影響しているのではないか

(橋爪委員)

今の子どもたちは、脳が文字に堪えられなくなっている。今の子はショート動画を幼少期からずっと見ていることが読書離れにつながっていると感じている。

(石川委員)

保護者も子どもたちに留守番させるときなどに動画を見せており、マイナス面もあると感じる。

(園議長)

今後、皆さんの意見を深く聞いていきたいので、順番を決めて、発表や質問をしていただき、より深めていきたいと思う。

次回から、1人10分で3人ずつにお話しいただき、最終的には方向性と課題を見出し、笑顔のつどいのテーマを絞っていきたい。社会教育は1つのテーマではないが、会を重ねるごとにまとまっていけたらと思う。

話す内容は、自分が選んだテーマについて、実際にしている活動でも感じている課題でもどちらでもいいので、未来会議という学びの場としてやっていきたい。

では次回は、梅谷委員、大賀委員、藤田委員の3人に発表をお願いします。

3. その他

(1) 各委員から

大賀委員より

古賀市人権尊重推進委員会 人権尊重推進作品の募集について

(2) 事務局から

資料② 令和6年度子どもたちの公民館利用に関する調査結果 説明

8月2日(日)立川談春 独演会 周知

9月23日(火・祝日)九州交響楽団公演 2025 周知

(3) 次回開催日程

7月 25 日(金) 18:30 ～ 会場: 103洋室

4. 閉会